

最優秀賞

「人生はお茶みたいだ」

张 朋 朋
ZHANG PENG PENG

お茶は中国から日本に伝来したようですが私がお茶を飲むのが好きになったのは日本に来てからのことです。

日本では食事をする時、習慣的にお茶を飲みます。一口啜っておいしそうに飲みます。その様子は楽しそうでうっとり陶醉しているようにも見えます。郷に入れば郷に従えで私達実習生の寮の食卓にもいつしかお茶が用意されるようになりました。でも私は何となく日本の習慣を真似をして飲んでいただけで本当にお茶を飲むのが好きになったわけではありませんでした。

来日して1年間、仕事上の苦勞、言葉の障害、望郷の思いが私を苦しめました。一度、どうしても辞めたくなり、日本の上司に話しました。その時、上司は私にお茶をついでこう言いました。「実は人生はこのお茶と同じだよ。毎日の生活をお湯にみたてれば、私達はその中に入っているお茶の葉みたいなものだよ。じっとよく見てどうしてお茶がおいしくなるのか考えてごらん。そうすれば今の悩みから出てこられると思うよ」

私はお茶を見つめて彼の言ったことを考えてみました。お茶を入れ始めると、お茶の葉はお湯の中ですくすくと舞います。揺れてなかなか安定しません。しかし、水分を十分吸ってからゆっくりと沈殿してよい薫りを漂わせます。今の私はこの舞っているお茶の葉と同じじゃないかと思いました。一時の苦勞と寂しさで動揺し

たようです。

心を静めてよく考えると、この1年で収穫したのも多くあることに気が付きました。会社の先進機械にも慣れましたし、『5S』の理念も日常の仕事を通じて段々理解できてきました。

『報・連・相』の考え方もよく分かるようになりました。日本語もまだ思うように習熟していませんが、会社の同僚とも仲良く交流できるようになりました。「そうだ。この一つ一つのことが私の財産ではないか、これから残りの期間、このいい環境を使ってもっと日本語と先進技術を身につけよう」と思い直しました。

両手でお茶を持ってゆっくり一口啜って初めは苦くてまるで苦痛、失敗、不遇の味のようにですが、じっくり味わううちに淡く微かな甘味が出てきます。それは幸福、成功、希望の味のように思います。今をくるくる舞いながらも一生懸命頑張ってこそいい薫りのするお茶になるのだと思います。

こうして、私は毎日、お茶を飲むのが好きになりました。そしてお茶の葉が舞う姿を見るのが特に好きになりました。まるで毎日の自分の姿を見ているようです。

日本の上司は私に人生のお茶を注いでくれたと思います。おかげで昨年12月日本語能力試験1級に合格しました。ありがとうございます。帰国まであと半年ほどになりましたが、最後まで一生懸命頑張りたいと思います。